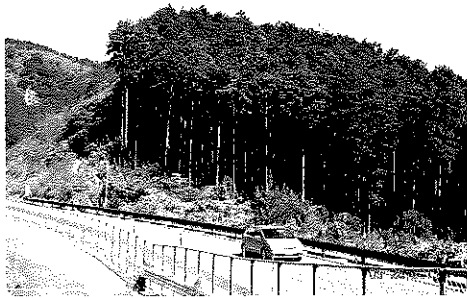


現状のままでは、智頭ICを通行して本町に來られる方々に、杉の町・林業の町として定着している本町のイメージダウンになる。景観整備の観点から



間伐が急がれる智頭IC沿線の森林の一部

整備
森林
町

町の玄関(智頭IC)周辺をきれいに

町長 / 間伐などを進める



高橋 達也

問 智頭インターチェンジ(IC)は、智頭町への入口部であり、家に例えれば玄関である。ところが、沿線の森林は、間伐や枝打ちなどの整備がなされておらず、幹折れの立ち枯れ木や竹林の進出も目立つ。

も、森林所有者に働きかけを行い、森林整備を進めるべきではないか。

答 町長 町としても玄関口という認識をしており、森林整備の必要があると考えている。森林組合とも連携し森林所有者へ間伐等の実施を働きかけたい。

問 単に道路沿線部のみに限定せず、この区域一体の森林整備を進めるべき。そのためには、森林の団地化を行うことが有効だが、今後どのようにする考えか。

答 町長 平成24年度から5年間で智頭町全体の森林団地化をするよう森林組合が事業を実施しており、森林所有者の意向を確認できれば、今年度中にも団地化ができる予定。



リニューアルオープンした恋山形駅にて

子育て

町民の声を聴く会議設置を
教育長 / 本年度中に設置したい

問 昨年成立した「子ども子育て支援法」で、子ども子育て会議の設置が定められた。本町は、保育園の一園化を目ざしており、ぜひこの会議を設置し、今後の施策推進のため、幅広い町民の意見を聴いて検討すべきではないか。

答 教育長 この新制度に関する事業計画等について広く意見を聴くため、子育て当事者の参画を得る会の設置の必要性を考えている。本年12月定例議会に設置条例案を提案する準備をしており、本年度中に会議を設置したい。